


CR-1 「オープン・イノベーション」で切り拓く 13:10 大阪ガスグループ型技術戦略

大阪ガス株式会社 オープン・イノベーション室長、
大阪大学 大学院 招聘教授 松本 毅 

【セッション概要】

『自社が強みを有するコア技術を強化し、内外の異種技術と結合・融合させ、付加価値を増大させるオープン・イノベーション型技術戦略の展開が必要不可欠になっている。このような多様な外部の資源をダイナミックに活用する枠組みを成功させるかどうかは、まさにプロジェクトマネジメント力 (P2M) にかかっている。大阪ガスグループの事例を紹介することによって、日本企業が必要とするプロジェクトマネジメント型「オープン・イノベーション」の在るべき姿を考える。

【講演者略歴】【大阪ガスでの職歴】1981年大阪ガス株式会社入社。凍結粉砕機の開発。薄膜センサー研究開発。技術企画室課長。人事部課長。MOTスクール設立。株式会社アイさぼーと取締役MOT事業本部長。2008年9月大阪ガス株式会社オープンイノベーション担当部長。2010年4月現職。

CR-2 地域信頼性のプログラムマネジメント 14:15 地域の信頼性向上のための防災・防犯プログラム

特定非営利活動法人 シュアティ・マネジメント協会
理事長 佐藤 唯行

【セッション概要】

どんな災害が、いつ、どこで、どのようにして発生するのか、極めて不確実性の高い災害に備えるには、日本という国全体の防災対策のプログラムを総合的にマネジメントする視点と全体像の提示が重要であるが、現状ではこれができていない。国家プログラムとしての『防災力の向上』に関するマネジメント能力が備わっていない中、いかにして地域の防災力を高めていくのか。地域とこのような問題を解決するために、『シュアティ(信頼性)』という言葉で、新しい価値としてのプログラムを描いてゆく。

【講演者略歴】1996年:災害軽減工学において修士号を取得。1996年:清水建設株式会社 国内各所及び海外各所で勤務。2008年:東京大学生産技術研究所民間活力による社会全体的な災害対応力の研究をメインテーマとし研究活動を再開。(現職)2008年:NPO 法人シュアティ・マネジメント協会を立ち上げる。

CR-3 ビジネスを創造するプログラムマネジメントの現場 15:35 技術を顧客価値に変える商品開発プロジェクト

日本ユニシス株式会社
サービス企画部 戦略推進室 室長 伊藤 佳美

【セッション概要】

ビジネスの現場では、顧客ニーズを迅速に捉え提案力を高めることが益々求められている。提案力を高めるためには、顧客ニーズを先取りした商品や各種サービス、開発プロジェクトを支えるための仕組みづくりなどが必要になる。本セッションでは、ビジネスの単位をプログラム、商品を開発する単位をプロジェクトとして、ビジネスプロジェクトと開発プロジェクトの関わり方や、プログラムマネージャーとプロジェクトマネージャーとの役割などを事例を交えて紹介する。

【講演者略歴】東京都立大卒。某電子機器通信メーカーで営業職を経験した後、2003年に日本ユニシス株式会社に入社。OSSビジネス全般、システム開発基盤などのプログラムマネージャとして従事、各種商品開発を推進中。

CR-4 スマートグリッドの導入と電気事業 16:40 スマートグリッドに係る多様な取り組みと今後の展望

財団法人 日本エネルギー経済研究所
戦略・産業ユニット電力グループリーダー 小笠原 潤一

【セッション概要】

スマートグリッドは、近年世界的に注目が集まっており、わが国でも複数の実証研究が開始されたところである。電気事業形態の違いや採用されている設備の違いもあり、米国では省エネルギー及び再生可能エネルギー、日本・欧州では再生可能エネルギーへの対応として取り組まれており、目指している方向が異なるが、共通する要素も多く、どういった分野での技術の革新に繋がるか注目される場所である。また小口需要家に展開する際の課題の指摘も行う。

【講演者略歴】平成12年より電気事業分野の調査研究に従事。経済産業省、電力会社等からの委託業務経験多数。平成15年北米北東部停電調査団メンバー、平成16年ESCJルール策定WGメンバー、平成20年新エネルギー大量導入に伴う系統安定化対策・コスト負担検討小委員会委員 等



MS-1 プロジェクトとビジネスをつなぐ仕組み 13:10 ビジネスの視点からプロジェクトを考える


エム・アイ・アール株式会社
ダイレクター 浦 正樹

【セッション概要】

日本の現場では、いまだにプロジェクトチームの自己犠牲的な努力でゴールを達成している。その目的は組織にビジネス上の価値をもたらすためである。ところが、その価値とは、プロジェクトが始まる前に決まるものであり、プロジェクトチームが主体的にコントロールできるものではない。昨今、プロジェクトの価値が問われ始めているが、それはプロジェクトの問題ではなく、組織の仕組みの問題である。セッションでは、ビジネスの視点からプロジェクトの価値とは何かを考える。

【講演者略歴】いすゞ自動車、アルテミスインターナショナル、PWCC (現IBM)、マイクロソフトなどを経て、現在に至る。「失敗する前に読む プロジェクトマネジメント導入法」(株式会社翔泳社)「プロジェクトを成功に導く組織モデル」(日経BP) など、著書多数

MS-2 PMとSEのためのWBSの再定義と使い方 14:15 従来の問題を一挙に解決するTCN-WBSの方法

DTCNインタナショナルInc.有限会社
代表取締役 江崎 通彦 

【セッション概要】

落ち漏れのないWBSによるマネジメントをするため、従来、的確に説明のできていなかったPMとSE (Systems Engineering management) の関係を明確にし、かつ両分野において、WBS (Work Breakdown Structure) によるマネージメント上、創造的なWBSの構築手法の問題を一挙に解決した方法。この問題の解決は、欧米でもまだ解決されていなかったものである。IT及びもの・システムのPM、SEに共通に使える。

【講演者略歴】川崎重工航空宇宙本部にて1976デザインツークストの手順を開発、航空機の開発に適用、デザインツークストマーズニーズの方法まで発展させた。石田財団DTCN研究室長、朝日大学大学院プロジェクト管理研究室教授、有人宇宙システム株式会社企画主幹、学術博士

MS-3 電気自動車「日産リーフ」の開発プロジェクト 15:35 電気自動車が拓く明日のモビリティ社会

日産自動車株式会社 ゼロエミッション事業本部
ものづくり・クオリティー本部 CVE 門田 英稔

【セッション概要】

2010年12月に、日・米・欧で電気自動車「日産リーフ」の販売を開始する。胸のすく加速感、圧倒的な静かさ、日常で十分な航続距離、ITによる24時間サポートなど、「日産リーフ」の魅力とそれを支える技術を、日産の電気自動車開発に初期から携わってきたチーフ・ヴィークル・エンジニアがプロジェクトでの経験を通して紹介する。また、EVの普及に向けた、充電インフラの拡大がグローバルで進められており、EVによる魅力的で環境にやさしい社会実現に向けた取り組みを紹介する。

【講演者略歴】09年7月 ゼロエミッション事業本部 CVE。07年12月 Nissan PV 第1製品開発本部 CVE。06年4月 パワートレイン開発本部 HEV開発部 主管。02年4月 先行車両開発本部 FCV開発部 主管。82年4月 日産自動車株式会社 入社。82年3月 横浜国大 機械工学科 修士卒業。

FI-1 政府系証券システム構築のポイント 13:10 危機管理のノウハウを語る

年金積立金管理運用独立行政法人
情報化統括責任者 (CIO) 補佐官 平井 一志 

【セッション概要】

システム開発において、業務内容の理解不足から基本設計が大幅に遅れ、プロジェクトが危機的状況に陥った場合、PMはどのように対処すべきか。このような危機の真の原因は、多くの場合意思決定の遅れであり、まずは経営陣の積極的な関与を求める必要がある。つぎに有識者を確保し、タイムマネジメントとして「ファストトラック」を採用する。ただしこれには副作用を伴う。業務・システム最適化の先陣を切った証券システムの構築を材料として、危機管理のノウハウを語る。

【講演者略歴】1975年三井信託銀行株式会社 (現中央三井トラスト・グループ) 入社、資金部、資金証券部、総合企画部、年金運用部、公的年金運用部長。2002年同信託システム子会社、中央三井インフォメーションテクノロジー株式会社取締役就任、品質保証部長ほか歴任。2008年現職。

FI-2 サービスモデルが価値を生むしくみ作りをプロジェクト化する 14:15 早い事業環境の変化でのしくみ作りのP2Mの活用

キューピー株式会社
生産本部エンジニアリング部次長 藤澤 正則

【セッション概要】

サービスモデルで価値を生むために、しくみを作っていくことは重要である。2008年9月以降、外的環境、内的環境共に大きく変わってきており、これまでのHow toでの進め方から、what toのP2Mでのしくみ作りが有効で効果的である。ここでは「①進め方の合意」「②環境の変化としくみを変えていく必要性」「③しくみを見る形にする」「④しくみ作りをPJ化する」のステップでの実践事例を説明します。

【講演者略歴】1985年キューピー株式会社入社。生産部門を経験後、エンジニアリング部門での製造ライン導入などに携わる。その後、CVS関連の組合に出向し、原料から販売までの仕組み構築PJなどを経験し、現在、グループ会社の事業支援などの業務に従事。PMAJ会員、PMR

FI-3 がんばれ日本発メタPM体系 15:35 日本の強みメタPMモデルで世界貢献

日本プロジェクトマネジメント協会
代表・理事長 田中 弘

【セッション概要】

日本発のPM体系では総合エンジニアリング企業のPM体系がグローバルエンジニアリング業界で主流となっており、また、最近PMAJのP2Mがフランス、ウクライナ、フィリピン、インドなどで注目を集めている。世界では日本発PMは「ヘビウエイト」PMと称され、米欧発のPMにない、メタPM (PMを超えたPM) を以て特長とするという評判を得ている。インフラプロジェクトが世界の主流となった今、メタPM体系の世界に向けての普及を担当する講師が日本PMの展開と世界貢献を見通す。

【講演者略歴】日本プロジェクトマネジメント協会代表・理事長、パシフィックPMイノベーション代表、フランスSKEMA経営大学院大学教授 (戦略・P&PM専攻)。2009年まで日揮株式会社に42年間勤務。世界PM界で30年にわたり活動、元グローバルPMフォーラム会長。應義塾大学法学部卒業、フランス (EU) 博士。

FI-4 手仕事の継承におけるPM 16:40 技術提供企業×教育現場×生活者を結び

株式会社 ツクダ・クロス・スタイル
代表取締役 佃 由紀子

【セッション概要】

ファッションビジネスの現場では、海外での大量生産と国内での低価格品に集中した消費が続いている。そんな中、「いいものを長く大切に愛用したい」という《生活者》、その希望を叶えるプロ集団の《提供者》、様々な専門家の立場からサポートする《応援団》を結成し連携していく活動をスタートさせた。本講演ではこの3者を結びつけたプロジェクト活動について報告する。新たな生活スタイルの提案というプロジェクトマネジメントについて具体的な活動を通して紹介する。

【講演者略歴】1986年玉川大学農学部農芸化学科卒。王子製紙株式会社入社、中央研究所パイオチーム所属。1990年 有限会社ツクダ縫製入社 (2004年株式会社ツクダ・クロス・スタイルに社名を変更) 2009年 同社代表取締役。